
永久の花

相庭 ゆうき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

永久の花

【Nコード】

N2945A

【作者名】

相庭 ゆづき

【あらすじ】

永久に咲く花の最期。永久を知る彼女の命。

永久に咲く花を知ってるかい？

彼はそう言つて腕に抱いた彼女の髪にそつと顔を埋めた。

黒く艶やかな長い髪が揺れる。

彼女は彼の胸の中で目を閉じたまま呟く。

知らないわ。

顔を上げて、髪に埋まっていた彼の顔を見つめる。

ゆつくりと繋がる唇。

朝焼けの赤い光だけが薄暗い部屋を仄かに照らす部屋の中。

彼が指さす先には、小さな植木鉢が置かれていた。

あれが、悠久花。

とこしえに、さく、はな。

小さな植木鉢にさらに小さく乗っかっている白い花。

雪よりも白く、彼女の知っているどの花とも違った形状をした、

美しい花。

朝焼けに染まりほのかに色づくその色は、初恋にときめく処女の頬の様な色をしている。水も要らず、陽の光も要らず、枯れることなくその姿を留め続けた花。

何代もの人の手に渡り、その歴史を眺めていた花。

彼が花を指さしたその手に、そつと彼女の指を絡めて引き寄せる。

彼女が彼の胸板を撫で、うっとりしたように、そして言う。

確かに奇麗。でも可哀想ね。

どうして？

本当に美しい物は刹那を生きるのよ。

あの花をいついかなる時にも見ることに出来ることは、それなりに気持ちいいことかもしれないけれど。

桜を見る時のような、鮮烈な印象を残すことはきつとない。

それは、あのとときあの瞬間に出会えたことに対する喜び。もう二

度と同じ時は来ないという過去への希求の念。これからももう二度とないであろうことを望見してしまう愚かさ。

希望という名の幻想。あまりにも美しい、夢幻。

本来の美しさに加えて、時間という制限を得ることによって、花に限らず、何もかもが、激しく輝きだすの。

人生は一期一会。

物質的な永遠なんて、私はいらない。

あなたといるこの一瞬が全て。この一瞬を久遠に変えて、ただ感じたい。

そして枯れ落ちる時にこう言うのよ。

私の一瞬一瞬の連続という人生の中で、輝いていない時はなかった。

全てが私の心を悠久の時で満たして眩しく輝いている。

全てが終わる今、この時も。

彼は彼女の髪を優しく優しく撫でた。

……花は散るから美しい。散りゆく様も、そして散り終わった後も。永遠に私達の心の中で輝き続けるでしょう。

人は死ぬから美しい。死に向かって、けなげに走っていく様は、あまりにも光に溢れている。そして、死んだ後も。私達に永遠を残していくでしょう。

彼は彼女の髪を優しく優しく撫でた。

いつでも見られる。だからその成り行きを見守る必要もない。

いつしか、忘れ去られていくだけの存在。

その日、永久に咲く花は、誰にも見られることなく、ポトリと落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2945a/>

永久の花

2010年10月17日01時57分発行